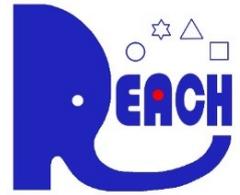


子どもたちが学校へ戻りつつあります

スリランカにおける新型コロナウイルスの新規感染者数は、2021年8月下旬にピークを迎えました。その後は、徐々に落ち着きを取り戻しつつあります。この間、教育も大きな影響を受けました。学校は、2020年3月から8月上旬、2020年10月上旬から2021年1月上旬、2021年4月下旬から10月下旬と、のべ1年以上にわたって閉鎖されていました。

こうしたなか、約2年ぶりに専門家チームがパイロット校を訪問し、コロナ禍の影響を把握しつつ、活動を再開することができました。本ニュースレターでは2022年3月までの進捗をお伝えします。



2年ぶりにパイロット校を訪問



学校訪問による主な確認事項は次のとおりです。

- 学びの後退や不登校など、COVID-19の影響はあるものの、特別支援教育ユニット（SEU）の児童は学校に戻っている
- 学校独自の取組みによる、多くの優良事例が確認できた
- 特別な教育的ニーズのある児童（SEN児）がSEU及び通常級で継続的に学習できるような、より一層の支援が必要である（即時/中期的な介入）
- SEN児を支援するIEコーディネーターが多くの学校で任命されていたが、具体的な取り組みはまだ見られない

学校訪問後に、教育省と協議し、現行PDMの枠組みを保持しつつ、計画どおりパイロット校への介入を行うこと、パイロット活動は「IE通達の全国的な実施に向け、より現状に即した支援策を検討するための試行錯誤のプロセス」と位置づけることで合意しました。

2020年2月に2校で開催して以降、保留となっていた意識啓発ワークショップも再開されました。2022年2月に4校、3月に4校で実施されており、残り2校についても早期に実施します。

教員養成校講師向け研修を開催しました

2021年12月上旬に、北西部州と西部州の教員養成校1校ずつで、幹部及び全科目の講師を対象にインクルーシブ教育に関する研修を開催しました（参加者はそれぞれ37名、27名）。

インクルーシブ教育の概念を紹介し、教員の役割・具体的方法の理解に関する講義を行いました。講義の大部分は事前にZoom録画し、会場では逐次で通訳しました。研修の後半では、SEN児が通常学級で学ぶうえで教員が行うべき配慮についてグループで討議しました。

参加者による評価は高く、特に教員の役割や教科別の指導法、個別の指導計画等の講義に高い関心が寄せられました。2022年5月以降に中部州及び北部州の教員養成校でも同様の研修を開催予定です。



お問合せ先: projectreachssbyjica@gmail.com